

新国立劇場〈演劇〉開幕作品
2014/2015シーズン
お待たせいたしました!!
ブレヒト ーいよいよ登場!!
[JAPAN MEETS... ー現代劇の系譜をひもとくー] IX

Die Dreigroschenoper 三文オペラ

2014年
9月

出演 池内博之

ソニン

石井一孝

大塚千弘

あめくみちこ

島田歌穂

山路和弘

ほか

作=ベルトルト・ブレヒト

音楽=クルト・ヴァイル

翻訳=谷川道子

演出=宮田慶子

音楽監督=島 健



新国立劇場

中劇場 ——— PLAYHOUSE
<http://www.nntt.jac.go.jp/play/>



池内博之



ソニン



石井一孝



大塚千弘



あめくみちこ



島田歌穂



山路和弘

三文オペラ

『乞食オペラ』がなければ
『三文オペラ』は生まれなかった

『乞食オペラ』ロンドンで誕生!
初演から200年後のリバイバルも
超ロングランに

『三文オペラ』いよいよ初日!!
空前絶後の大ヒット作に

1728年1月ロンドン。1週間も上演されれば成功、という時代に、当時最長の62回、4カ月半にわたるロングランを記録したのが、『乞食オペラ (THE BEGGAR'S OPERA)』。ジョン・ゲイによる、イタリア・オペラのパロディーで、69もの歌曲が入った、乞食が主役の政治風刺劇だった。その9年後、悪名高い「演劇検閲法」が施行されたのも『乞食オペラ』への喝采が遠因だとも。

さて、話は飛んで、200年後の1920年、その改訂版がリバイバル上演される。すると1463回というケタ違いの、期間にして2年半という超ロングランを記録。その大評判は海を渡ってドイツのブレヒトの耳にも届いた。彼は仕事の片手間に『乞食オペラ』を下敷きに『下賤な奴ら』という習作を執筆。後の『三文オペラ』の誕生である。

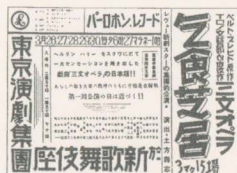
『下賤な奴ら』から
『三文オペラ』へ

『三文オペラ』の初演は1928年、ベルリンのシッフパウアーダム劇場のこけら落としとして幕を上げた。実は別の作品が予定されていたのが様々な事情で頓挫、その頃に『男は男だ』で注目を集めていたブレヒトに白羽の矢が立てられた。ブレヒトは作曲家クルト・ヴァイルに声をかけ、2人は大車輪で台本を完成させ『三文オペラ』を書き上げた。

当代之っての“ヴァイル唄い”のウーレンバーとミルバが共演(《海賊ジェニー》)は2人のヴァージョンが入っている、世界的なオペラ歌手ルネ・コロも加わった豪華キャスト盤のCD「クルト・ヴァイル 三文オペラ」。



山のようにトラブルが起きるなか、難産の末『三文オペラ』は1928年8月31日に初日を迎え、賞賛の嵐が沸き起こる。絶賛の記事が巷にあふれ、劇中歌も大ヒット。失業者の増加やナチスの台頭など政治的な緊張高まる当時のドイツで、『三文オペラ』の辛辣な反逆精神と魅力的なエンターテインメント性は観客を魅了し、わずか2年余りでドイツ中の120を越す劇場で、4000回以上の上演回数を記録。さらにはモスクワ、パリ、東京、ニューヨークでも上演され、1931年の映画化でさらに拍車がかかり、ブレヒトの名前は一躍世界にとどろくこととなった。



1932年『乞食芝居』の外題で「東京演劇集団文芸部自由脚色」、土方興志が演出、丸山定夫、東山千栄子らに、榎本健一、二村定一ら軽演劇畑の役者も出演した日本初演の『三文オペラ』。

初の映画化はG.W. ハブスト監督による1931年の製作だが、53年にはエリザベス女王戴冠の祝賀映画として、若きP. ブルックがメガホンをとり、ローレンス・オリヴィエがマクヒスを演じた。



《おらすじ》

ロンドン。貧民街の顔役、メッキーは街で偶然出会ったポリーを見初め、その日のうちに結婚式を挙げる。ところが彼女は乞食の総元締め、ピーチャムの娘だった。そんな男に娘はやれなと、警視総監・ブラウンに彼の逮捕を要求するピーチャム。

折しも女王の戴冠式のパレードが計画されている大切な時期。ピーチャムは、メッキーを逮捕しないなら、パレードにロンドン中の乞食とデモ行進をすると、ブラウンを脅す。

メッキーは逃走を図るが、愛人ジェニーの密告で捕らえられてしまう。数日後、愛人の一人ルーシーとポリーの喧嘩がきっかけに、メッキーは脱獄に成功、再び街に戻るが……。



演出家・宮田慶子からのメッセージ

1928年にベルリンで初演の幕を開けた『三文オペラ』は、その4年後には『乞食芝居』という題名で日本でも上演されました。ジョン・ゲイの『乞食オペラ』をもとに、元々はドイツのキャバレーの芸人たちを集めて上演されたこの芝居は、多様な音楽様式と軽妙なドラマで構成されています。それが、終幕に向かって起きる大ドンデン返しによって、享楽的なヒーローの一代記から、巨大な社会構造への抵抗へと姿を変えていき、さらに、それすらもシニカルに客観視する、桁はずれの底力を見せるのです。

若きブレヒトとヴァイルが、あり余るエネルギーをぶつけて作り上げた『三文オペラ』を、その娯楽性とメッセージ性を柱にして、挑みたいと思っています。



ブレヒト



ヴァイル

新国立劇場からのお知らせ

消費税率引き上げに伴う チケット料金の改定について

2014年4月1日の消費税率引き上げに伴い、4月1日よりチケット料金を改定いたします。ただし、4月1日以降の公演でも3月31日までのご購入については改定前(消費税5%)の料金でお買い求めいただけます。

※なお、2014年3月31日までにお申し込みいただいても、チケット代金のお支払いが4月1日以降となった場合は改定後(消費税8%)の料金を申し受けます。予めご了承ください。詳しくはウェブサイト等でお知らせします。

演劇公演料金(税込)		S席	A席	B席
マニラ瑞穂記 (4月公演)	改定前	—	5,250円	3,150円
	改定後	—	5,400円	3,240円
テンベスト (5～6月公演)	改定前	7,350円	5,250円	3,150円
	改定後	7,560円	5,400円	3,240円
十九歳のジェイコブ (6月公演)	改定前	—	5,250円	3,150円
	改定後	—	5,400円	3,240円
永遠の瞬間 —Time Stands Still— (7月公演)	改定前	—	5,250円	3,150円
	改定後	—	5,400円	3,240円

※Z席(当日券)は2014年4月より税込1,620円(本体1,500円)に改定します。

※左記四作品の特別割引通し券を2/15(土)より発売いたします。詳しくは通し券チラシまたはウェブサイトをご覧ください。

「三文オペラ」は4月以降に発売を予定しております。



新国立劇場

http://www.nntt.jac.go.jp